



哺乳類による森林被害の見分け方



地方独立行政法人

北海道立総合研究機構

森林研究本部 林業試験場

北海道において、樹木を加害する代表的な種として、エゾシカ、エゾヤチネズミ、エゾユキウサギがあげられます。適切な被害対策には、被害を見つけたとき、どんな動物による被害であるかを正しく判定することが大切です。

それぞれの食べ方や切歯の形状により、被害を受けた部分には特徴的な痕跡が残ります。また、加害種の糞や足跡などが残っていることもあります。これらの観察から、加害種を判定することができます。

動物の糞



エゾヤチネズミ



エゾユキウサギ



エゾシカ

エゾヤチネズミの糞は、米粒のような形状で、樹皮を食害された樹木の根元にしばしば見られます。

エゾユキウサギの糞は、球を押しつぶしたような円い形をしています。

エゾシカの糞は、たいていエゾユキウサギよりも黒い色をしています。俵形のものが多いですが、多数の糞粒が固まった柔らかい糞もあります。

枝葉の被害

枝葉の食害は、どの種による被害も痕跡の形態が似ており、特に被害の発生から時間が経過している場合は、正確な判定が難しくなります。

エゾシカ

エゾシカは、枝や細い幹を口で引きちぎって食べるため、切断面はなめらかではなく、木の繊維が残っていることもあります。また、枝や幹をくわえて折り、枝先を食べることもあります。

エゾシカに繰り返し食害を受けると、樹形が盆栽状になります。



ミズキ(食痕)



アオダモ(幹折り)



繰り返し食害を受けたハルニレ



繰り返し食害を受けたカラマツ

エゾヤチネズミ

エゾヤチネズミは、樹皮の食害が激しくなると、枝葉を切り落としてしまうことがあります。エゾヤチネズミによる食痕は、切歯痕が細かいことで他の動物と区別できます。



カラマツ

エゾユキウサギ

エゾユキウサギの食痕は、斜めに鋭く切り落とされた切断面となります。



カラマツ



ミズナラ

エゾヤチネズミやエゾユキウサギによる食害は、ふつう晩秋季から冬季に発生しますが、エゾシカによる枝葉の食害は、四季を通じて発生します。

樹皮の被害

エゾシカ、エゾヤチネズミ、エゾユキウサギは、いずれも樹皮を食害します。これらの動物は、ふつう外樹皮は食わず、切歯で樹皮を削いで、内樹皮を食べています。エゾシカは、角こすりによっても樹皮を加害します。

エゾシカ

エゾシカは、上顎に切歯がないため、下顎の切歯で削り取るようにして樹皮を食べます。アオダモやミズキなどの樹種には、幅5mm前後の食痕が見られます。また、ニレ属などの樹種は、樹皮を口ではさんで引き剥がすため、樹皮は繊維状に引き裂かれており、剥皮された幹には無数の切歯痕が見られます。



アオダモ(樹皮食害)



ハルニレ(樹皮食害)



カラマツ(樹皮食害)

角の先端部をこすりつけた場合、幹に筋状の深い傷がつきます。一方、角の分岐部や側面による場合は、帯状に擦ったような傷跡が残り、トドマツの小径木などでよく見られます。



トドマツ(角こすり)

エゾヤチネズミ

エゾヤチネズミの切歯痕は、幅が2mm以下で、幹には多方向から削られた痕跡が残ります。被害は通常根元付近で見られますが、枝の付け根などにも見られることがあります。かじり落とされた外樹皮が、糞とともに被害木の周りに落ちています。



カラマツ



カラマツ

エゾユキウサギ

エゾユキウサギの切歯痕は、幅が2.5～3.5mmで、幹には横方向に鋭く彫刻刀で削ったような痕跡が残ります。



ヤナギ



イタヤカエデ

被害時期の見分け方

樹木に対する獣害は、傷跡がその後も長く残ることがあり、このような古い痕跡は、かつての被害状況を知る手がかりとなります。年ごとの被害状況を把握するには、その年に新たに発生した被害を見分ける必要があります。

枝葉の被害

被害はふつう当年枝に発生しますので、被害を受けた部分が当年枝かどうかを見分ける必要があります。

カラマツや広葉樹は落葉樹なので、当年枝には葉が付いています。枝を食害されると、当年枝の途中から別の枝を出し、その枝がまた食害されることもあります。



カラマツ(7月)



ミズナラ(5月)



トドマツのエゾシカ食害(6月)
2年前に頂枝が食害を受けたため、左側の側枝が上向きに変わり(葉は側枝と同様の付き方になっている)、新たな頂枝となっている

樹皮の被害

樹皮を食害するのは、主に積雪期です。エゾシカによる角こすりは、8月頃から発生し、10月後半にピークを迎え、翌年の4月頃まで続きます。

被害を受けた幹は、春には明るい色をしています。6月頃から次第に黒っぽくなり、目立たなくなります。



ハルニレのエゾシカ食害(6月)



カラマツのエゾヤチネズミ食害(5月)
明るい色の部分は当年被害、変色した部分は以前の被害

古い被害は、被害を受けた部分の周囲に癒傷組織が形成されます。この部分の観察も、新しい被害であるかどうかを判定する参考となります。



ハルニレのエゾシカ食害(5月)
明るい色の部分は当年被害、変色した部分は1年前の被害

北海道立総合研究機構 森林研究本部 林業試験場
森林資源部 保護グループ

〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山

電話 0126-63-4164

ホームページ <http://www.fri.hro.or.jp/>

メールアドレス forestry@hro.or.jp

2013年1月作成